

令和7年度9月定例記者会見 次第

日時：9月25日（木）13時30分

会場：糸島市役所 庁議室

【出席者】

〔伊都国記者会〕朝日新聞社、糸島新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、
読売新聞社、NHK福岡放送局、時事通信社

〔糸島市〕 市長、副市長、教育長、関係課（下記参照）

1 市長あいさつ

2 案件

- | | |
|-------------------------------------|-----------------|
| ①令和7年度福岡県原子力防災訓練について | 【市長発表】
危機管理課 |
| ②マイナ救急について | 【市長発表】
救急課 |
| ③加布里漁港のカキ小屋完成について | 【市長発表】
水産林務課 |
| ④『第9回伊都国フォーラム 倭国形成と平原王墓』
について | 【市長発表】
文化課 |
| ⑤『糸島インクルーシブ＆ボディパーカッションフェ
スタ』について | 【市長発表】
文化課 |

3 懇談・その他

■次回定例記者会見の開催日時（予定）

日時：10月24日（金）13時30分～

場所：糸島市役所 庁議室

令和7年度福岡県原子力防災訓練について

1 訓練実施目的

「原子力災害対策特別措置法」や「原子力災害対策指針」では、万が一、原子力災害が発生した場合には、原子力発電所から30km圏内の住民は、まずは自宅等へ屋内退避し、その後の状況により、国の指示で、30km圏外の避難所へ一時移転することとなっている。

糸島市では、本市の一部（約1万5千人、約6千世帯）が、この30km圏内に含まれていることから、「地域防災計画」及び「広域避難個別計画」等を策定し、万が一の原子力災害に備えている。

今回、国、佐賀県及び長崎県と連携し、広域避難訓練等を実施することにより、市民及び防災業務関係者の原子力防災対策の習熟及び意識向上、並びに防災関係者間相互の連携強化を図るもの。

2 日時

令和7年10月5日（日）8時00分～15時00分

3 場所

福岡県庁、糸島市役所 等

4 主催者

福岡県及び糸島市（佐賀・長崎両県と連携。）

5 参加者

機関数 119機関（自衛隊、警察、消防、原子力規制庁、九州電力 等）
参加者数 約2,740人（うち、住民参加 約1,750人）

6 訓練想定

九州電力株式会社玄海原子力発電所4号機運転中に、佐賀県内において地震が発生、その後、事故等の複合事象により、原子炉への全ての給水・注水機能等が喪失し、原子炉内の放射性物質が外部に放出された場合を想定。

糸島市は、事態の進展に応じて、国、県、関係市町及び関係機関と連携し、地域防災計画等に基づく諸対策を実施する。

7 訓練内容

※ 下線部は知事・市長が対応予定

※ アルファベットは別紙第2「主な訓練会場位置図」上の地点と一致します。

(1) 情報収集・伝達訓練

原子力災害時に県民の安全及び安心を確保するため、九州電力や国からの情報を、正確に収集し、関係機関や住民に伝達する訓練を行う。

- 国、3県との間でテレビ会議を開催(M) ※知事のみ
- 九州電力や国からの情報収集、関係機関への情報伝達等
- 県が応急対策（緊急時モニタリング）の実施状況を把握
- 県が道路障害情報の収集・伝達
- 学校、幼稚園及び保育園への情報伝達（別日に実施）
中学校4校、小学校4校及び幼稚園・保育園7園への帰宅指示等を伝達
- 防災アプリ等を活用した住民広報訓練
ふくおか防災ナビ・まもるくん、エリアメール及び防災行政無線等による住民広報（原子力緊急事態宣言発令及び屋内退避指示）を実施
- 糸島現地災害対策本部設置運営訓練
糸島市役所内に県現地災害対策本部を設置し、現地での総合調整に係る図上訓練を実施

(2) 緊急時モニタリング訓練

避難指示等を国が出す際に参考にする「空間放射線量率」（一定時間内に空气中を通過する放射線の量）等を、県内各所で測定する。

- 空間放射線量率の監視強化(J) ※知事のみ
 - ・ モニタリングポストにおけるデータ収集頻度の増
 - ・ サーベイメータによる測定
- 環境試料（水）の採取・測定
- モニタリングセンター（国）との情報伝達

(3) 広域避難訓練

万が一、原子力災害が発生した場合に備え、住民の「屋内退避」訓練を行い、更に、U P Z（原子力発電所から半径30km圏内）で高い放射線が確認された場合を想定し、「一時移転」（無用な被ばくを避けるため、一週間以内に当該地域から離れる）を行う。

- 県内広域避難訓練(C)(G)(N)(O)
 - 自家用車やバスによる広域避難を実施
- 内閣府ガイドライン及び県避難所運営マニュアル策定指針に対応したモデル避難所の設置(O) ※篠栗町民体育館（篠栗町）のみ実施
 - ・[新規] トイレトレーラー配備及び仮設トイレの設置
 - ・[新規] 備蓄物資（段ボールベッド、簡易ベッド等）及びキッチンカー配備
 - ・[新規] 配慮スペース（男女別更衣室、授乳スペース等）の設置
- U P Z外屋内退避訓練
- 在宅の避難行動要支援者避難支援訓練

- 交通規制・誘導訓練
主要避難経路の通行止めを想定した交通規制・誘導及び迂回路による避難
- 愛護動物同行避難訓練(N)
- 障がい者支援施設等の社会福祉施設の広域避難訓練(A) (E) (I) (K) (L) (P)
- 避難元病院の避難訓練(B) (F) (H)
- 放射線防護施設の屋内退避訓練(D)
離島（姫島）の放射線防護施設（はまゆう）で屋内退避を実施

(4) 原子力災害医療訓練

- 放射性物質による被ばくの低減及び汚染の拡大防止を適切に実施するために、避難退域時検査・簡易除染訓練等を行う。
- 避難退域時検査・簡易除染訓練(H) (I) (K) (N) (O)
避難先でバス及び自家用車並びに住民の避難退域時検査及び簡易除染を実施
 - 安定ヨウ素剤の緊急配布訓練(C) (G)
避難者に安定ヨウ素剤の緊急配布を実施（訓練では『模擬薬』を配布）
 - 健康相談訓練(N) (O)
県と放射線技師会が連携して、福岡市、篠栗町の避難所で健康相談・健康講話を実施
 - 被ばく傷病者等搬送等訓練
糸島市U P Z内に発生した被ばく傷病者の医療機関への搬送及び受入を実施

8 その他

(1) 知事スケジュール・取材場所等

- ・知事行程：別紙1「令和7年度福岡県原子力防災訓練知事スケジュール」
- ・主な会場：別紙2「令和7年度福岡県原子力防災訓練主な訓練会場」

(2) 取材申し込み

当日取材を希望される場合は、9月30日（火）17時までに別紙3「取材申込書」を御提出ください。

※ 訓練の円滑な実施のため、事前の申込みに御協力ください。

(3) 訓練を中止する場合の対応

訓練を中止すべき事象が発生した場合（大雨・洪水警報の発表、震度5弱以上の地震や大規模事故等が発生した場合）は、訓練を中止します。

なお、訓練を中止する場合は、取材申込書に御記載いただいた携帯電話番号等に御連絡します。

(4) その他留意点等

- ・訓練会場では、個人毎に報道機関であることが識別できる腕章等を着用ください。
- ・訓練中の訓練参加者への取材は御遠慮ください。

※ この他、訓練進行の妨げにならないよう御協力ください。

・各取材場所における駐車場については、別紙4「報道関係者向け駐車場案内図」を御確認ください。

【問い合わせ先】

糸島市 総務部危機管理課

防災企画係 担当：金子・酒井

電話番号：092-332-2110

メール kikikanri@city.itoshima.lg.jp

令和 7 年度福岡県原子力防災訓練
知事・市長スケジュール 10月 5 日（日）

時刻・場所	訓練項目等	内容等
09:15～09:20 (5分) 場所： 災害対策本部 会議室	1 国・3県によるテレビ 会議訓練 <u>(知事発言)</u>	<p>① 訓練内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国が緊急事態宣言等について説明 ・関係自治体が現状、取組状況を説明 <p>② 参加機関</p> <p>国、関係自治体 (主な参加者氏名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(国) 原子力災害対策本部長 (内閣総理大臣) <p>代役：内閣府政策統括官（原子力防災担当） まつした ひとし 松下 整（予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(国) 原子力災害対策副本部長 (内閣官房長官) <p>代役：内閣府政策統括官（原子力防災担当） 付参事官（地域防災担当）付 地域原子力防災推進官 おきた しんいち 沖田 真一（予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(国) 原子力災害現地対策本部長 (環境副大臣兼内閣府副大臣) <p>なかだ ひろし 中田 宏（予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(佐賀県) やまぐち よしのり 山口 祥義 知事 ・(長崎県) おおいし けんご 大石 賢吾 知事 <p>③ 視察者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服部 誠太郎 福岡県知事 はっとり せいたろう
	09:20～09:50 移動（30分）	
09:50～10:00 (10分) 場所： 福岡市西区 福岡普及指導 センター	2 緊急時モニタリング 訓練 <u>(知事視察)</u>	<p>① 訓練内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サーベイメータを使用した空間放射線 量率の測定 <p>② 参加機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県環境保全課 ・県福岡普及指導センター <p>③ 視察者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服部 誠太郎 福岡県知事 はっとり せいたろう
	10:00～10:25 移動（25分）	

10:25～10:40 (15分) 場所：糸島市 一貴山公民館	3 広域避難訓練 4 安定ヨウ素剤の緊急配布訓練 <u>(いずれも知事視察)</u>	<p>① 訓練内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自家用車及びマイクロバスによる避難を行う住民の一時集合、安定ヨウ素剤の配布 <p>② 参加機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県防災企画課 ・県薬務課 ・糸島市 <p>③ 観察者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<small>はつとり せいたろう</small> 服部 誠太郎 福岡県知事 ・<small>つきがた ゆうじ</small> 月形 祐二 糸島市長
11:20～11:35 (15分) 場所：篠栗町 町民体育館	5 広域避難訓練 <u>(知事視察)</u>	<p>① 訓練内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内閣府ガイドライン及び県避難所運営マニュアル策定指針に対応したモデル避難所の設置 <p>② 参加機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県防災企画課 ・糸島市 ・篠栗町 <p>③ 観察者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<small>はつとり せいたろう</small> 服部 誠太郎 福岡県知事 ・<small>つきがた ゆうじ</small> 月形 祐二 糸島市長 ・<small>みうら ただし</small> 三浦 正 篠栗町長
11:35～11:40 (5分) 場所：篠栗町 町民体育館	6 知事囲み取材	<p>(囲み取材同席者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<small>はつとり せいたろう</small> 服部 誠太郎 福岡県知事 ・<small>つきがた ゆうじ</small> 月形 祐二 糸島市長 ・<small>みうら ただし</small> 三浦 正 篠栗町長

令和7年度福岡県原子力防災訓練主な訓練会場位置図

別紙2

凡例

- 広域避難訓練関係
- ▲ 施設避難訓練関係
- その他

30km圏

※ 本図は、国土地理院九州地方測量部から防災用として提供を受けた基盤地図を使用して作成されています(平成24年4月作成)。
※ 本図は、防災目的に限り利用できます。

障がい者支援施設小富士園(A)※1
10:55 避難車両があごらへ

小富士病院(B)※2
10:35 糸島医師会病院へ避難

淀川公民館(一時集合場所)(C)
10:20 淀川行政区住民集合、
安定ヨウ素剤配布
10:50 バスが春吉中学校へ
※ 駐車スペースなし

姫島福祉センターはまゆう(D)
10:30 放射線防護施設での屋内退避

介護老人保健施設ふる里(E)※1※2
10:50 避難車両が西寿へ

福吉病院(F)※2
11:45 糸島医師会病院へ避難

糸島医師会病院(H)※2
10:50 小富士病院からの避難者到着
12:15 福吉病院からの避難者到着
避難退域時検査実施

糸島市健康福祉センターあごら(I)
11:15 小富士園からの避難車両到着
避難退域時検査実施
12:05 避難車両がわかば苑へ

福岡普及指導センター(J)
9:30 サービメータによる測定

一貢山公民館(一時集合場所)(G)
10:20 一貢山行政区住民集合、
安定ヨウ素剤配布
10:50 バスが篠栗町民体育館へ
※ 駐車スペースなし

福岡県庁(M)
9:15 国・関係自治体テレビ会議

篠栗町民体育館(避難先)(O)
12:30 一貢山行政区からの避難者
(自家用車、バス)到着
12:35 避難退域時検査、健康相談実施

(注意) 知事による視察は、11:20～11:35
に実施します。

介護老人保健施設西寿(K)※1※2
11:30 ふる里からの避難車両到着
避難退域時検査実施
12:15 避難車両が若杉の里へ

春吉中学校(避難先)(N)
12:15 淀川行政区からの避難者(自家
用車、バス、愛護動物同行)が
到着
12:20 避難退域時検査、健康相談実施
※ 駐車スペースなし

介護老人保健施設若杉の里(P)※1※2
13:15 西寿からの避難車両到着

障がい者支援施設わかば苑(L)※1
12:35 あごらからの避難車両到着

取材時の注意事項

※(全般)記載時間は目安です。前後する場合があります
ので、予めご了承下さい。
※(全般)アルファベットはお知らせ本文の記載と一致しま
す。また、下線部は知事の対応・視察先を指します。
※1 建物内対応不可。施設利用者の撮影不可。
※2 建物内対応不可。敷地内ではマスク着用。

問い合わせ先
直通 092-332-2110
担当 金子、酒井

※ 送信票は不要です。

FAX 092-324-8355 (糸島市 総務部 危機管理課 防災企画係 宛)

令和7年度福岡県原子力防災訓練

取材申込書

報道機関名 :

担当者名 :

取材予定の訓練会場 :

Tel :

※ 訓練当日に、出先でも連絡が取れる携帯電話番号等をご記載ください。

Fax :

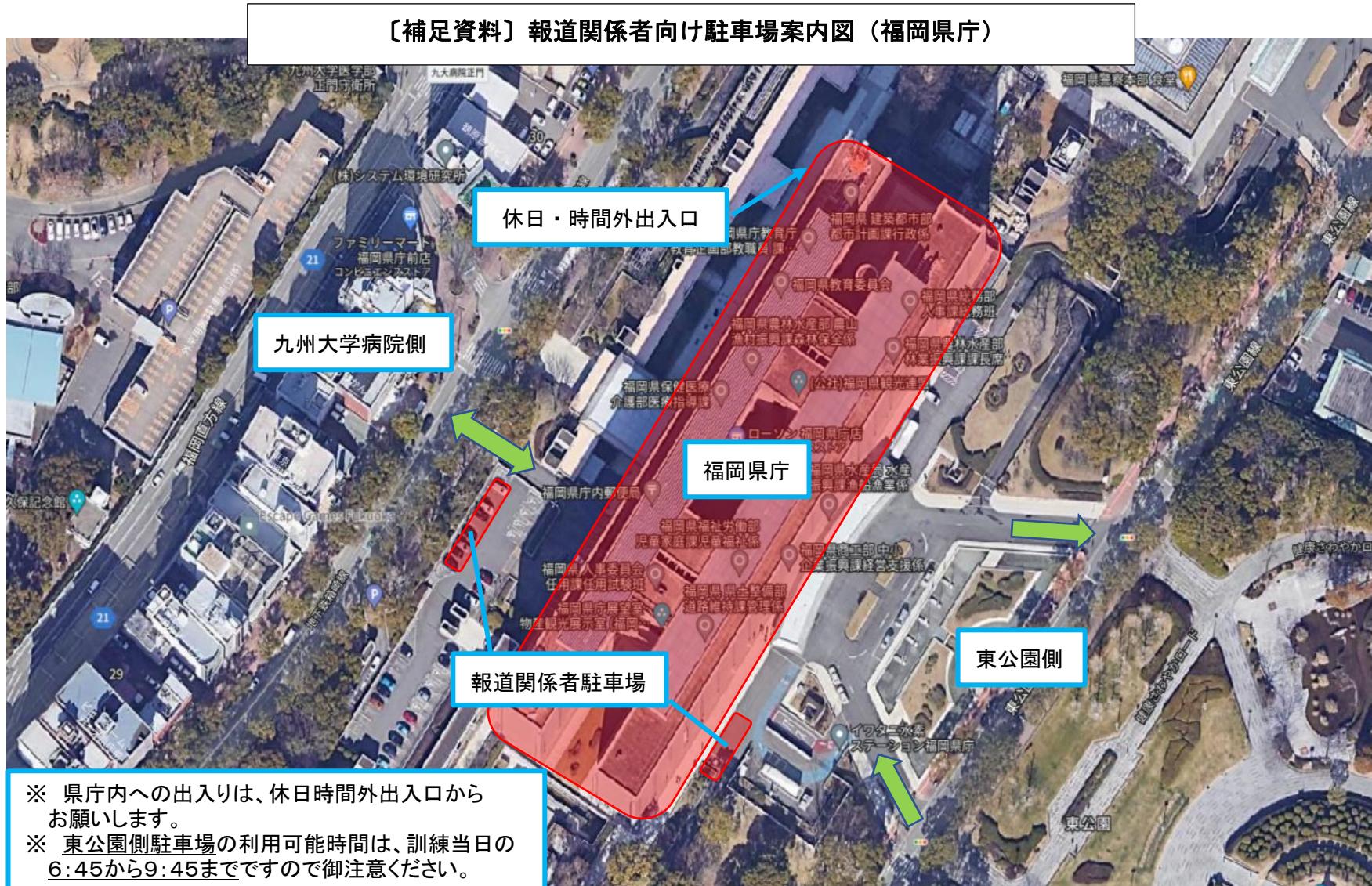
Mail :

車両情報（ナンバー、車種、色）:

※ 本申込書を9月30日（火）17時までに送付願います。

報道関係者向け駐車場案内図

別紙 4



報道関係者向け駐車場案内図

別紙 4

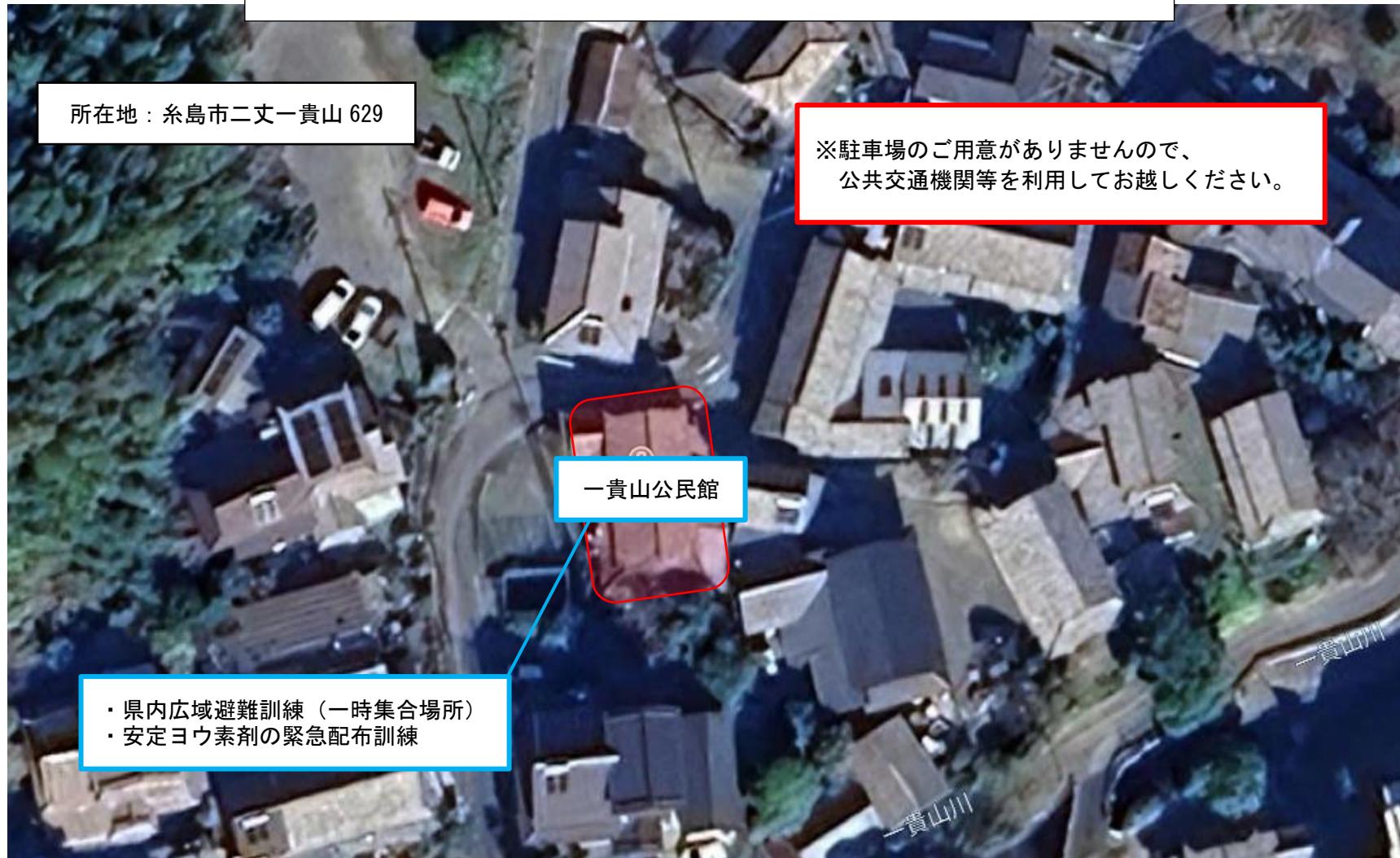
〔補足資料〕報道関係者向け駐車場案内図（福岡普及指導センター）



報道関係者向け駐車場案内図

別紙 4

〔補足資料〕報道関係者向け駐車場なし（一貴山公民館）



報道関係者向け駐車場案内図

別紙 4

〔補足資料〕報道関係者向け駐車場案内図（篠栗町民体育館）



令和7年9月25日

消防本部救急課

10月から「マイナ救急」が始まります

◇マイナ救急とは

総務省消防庁が進めている健康保険証の利用登録がされたマイナンバーカード（マイナ保険証）を活用した救急業務の円滑化を図るための実証事業をいいます。糸島市消防本部では、救急車を必要とする傷病者本人の同意を基本とし、マイナ保険証を専用端末で読み取り、通院履歴や服薬情報等を把握することで、傷病者やご家族が病歴や飲んでいる薬の情報を伝える必要がなくなることで負担を軽減でき、より適切な応急処置や搬送先医療機関の選定などの救急業務の円滑化を図ります。

* 本実証は、総務省消防庁が全国すべての消防本部（720本部）と連携し実施するものです。

◇実証事業開始日

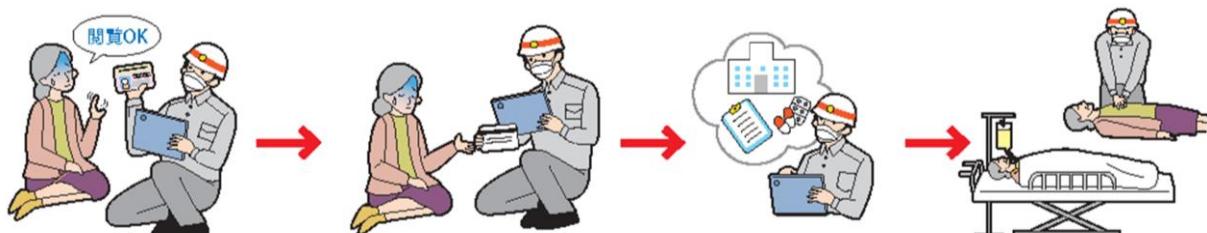
令和7年10月1日（水）

◇実証期間

令和7年10月1日～令和8年3月31日

（令和8年度から本格運用する予定です）

◇マイナ救急の流れ



①傷病者が情報閲覧に同意する

②マイナンバーカードを読み取る
※暗証番号の入力不要

③隊員が医療情報を閲覧する

④より適切な処置や搬送先医療機関の選定につながる

【問い合わせ先】

糸島市 消防本部救急課

救急係 担当：仲西、濱地

電話番号：092-332-8070

メール：kyukyu@city.itoshima.lg.jp

県の交付金と市の水産業振興対策事業補助金を活用
加布里漁港に常設のカキ小屋が完成
10月23日 竣工式

加布里漁港に、常設カキ小屋（2棟）が完成し、10月23日に竣工式が開催されます。

糸島漁業協同組合のカキ小屋常設は、令和元年度の岐志漁港（9棟）、令和4年度の船越漁港（7棟）に続き3漁港目です。

糸島市には、冬の風物詩「糸島カキ」を求め、25軒のカキ小屋などに年間52万人を超える観光客が訪れます。

また、加布里漁港のカキ小屋では、冬場の漁閑期に約60人の雇用を生み出しています。

今回のカキ小屋常設により、一層の地域水産業の振興と漁村の活性化が期待されます。

1 竣工式

令和7年10月23日（木）10時開式

2 事業の概要

（1）事業主体 糸島漁業協同組合

（2）施設

1) 名称 カキ小屋：2棟

2) 構造 鉄骨造平家建て

3) 面積 288.0m²/棟

4) 客席数 約200席/棟



（3）総事業費：127,527千円（税抜：115,934千円）

内訳：57,780千円／県費

：3,332千円／市費

：66,415千円／漁協負担

【問い合わせ先】

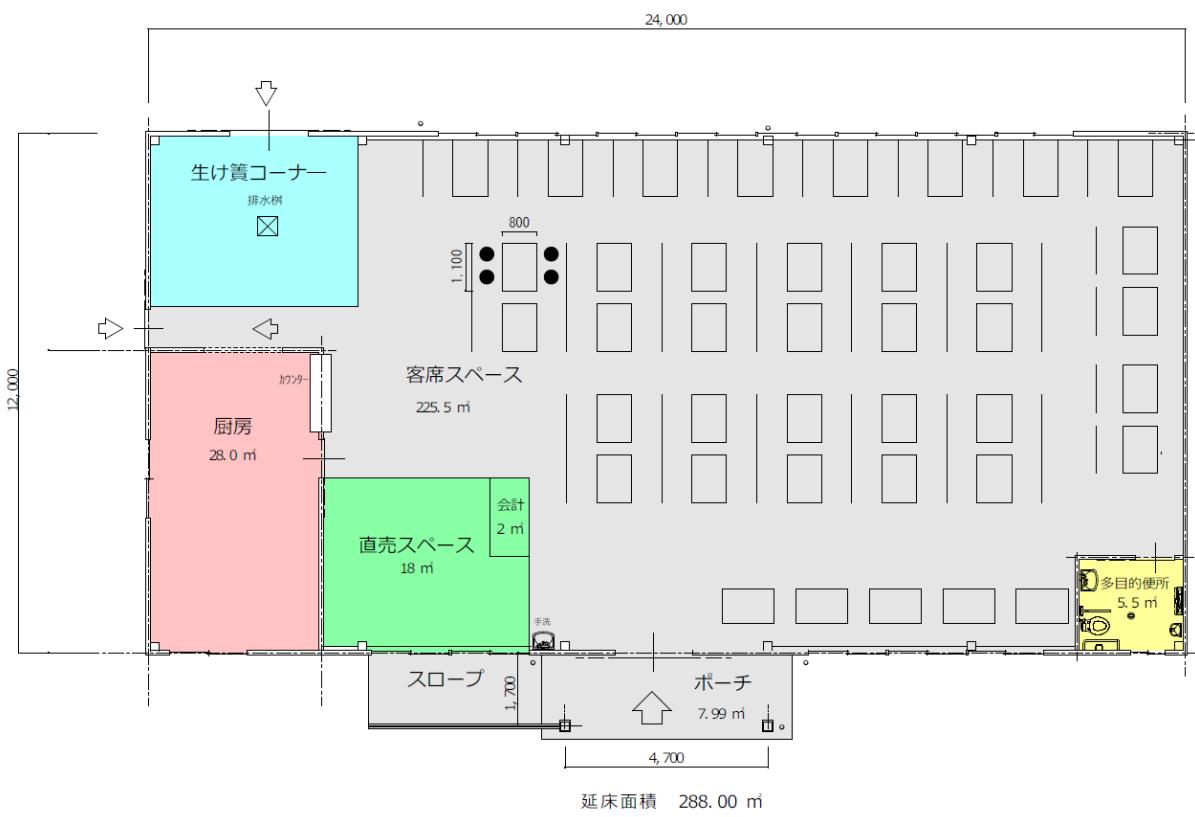
糸島市 農林水産部 水産林務課

担当：久原、元山

電話番号：092-332-2088

メール：suisanrinmu@city.itoshima.lg.jp

完成イメージ図（平面図）



竣工式 カキ小屋周辺見取り図



令和7年9月 25 日

地域振興部文化課

第9回伊都国フォーラム

「倭国形成と平原王墓

—平原遺跡発掘 60 周年記念—」の開催について

平原遺跡発掘 60 周年を記念して、講演会とシンポジウムを開催します。

平原遺跡は伊都国の王墓として知られ、国宝に指定された内行花文鏡は、ひろく市民に親しまれています。そのような平原遺跡ですが、昭和 40(1965)年に原田大六氏を中心に発掘調査が行われてから、今年で 60 年を迎えました。

そこで、発見・発掘から今日に至るまでの平原遺跡のあゆみを紹介するとともに、最前線で研究をされている研究者をお招きし、発掘から 60 年を経ても論点や話題を提供し続ける平原遺跡の位置づけについて講演をしていただきます。

また、後半では、「伊都国最後の王墓、平原王墓に迫る」と題したシンポジウムを開催します。

第9回伊都国フォーラムについて（別添チラシ参照）

日 時 令和7年 10月 26 日(日) 10時00分～16時00分(9時00分から受付開始)

会 場 伊都文化会館大ホール(糸島市前原東2-2-7)

講 師 【調査報告】「平原王墓の調査と伊都国の性格」

平尾和久(糸島市文化課)

【基調講演 1】「平原巫女王墓とイト国が果たした役割」

柳田康雄(國學院大學博物館客員教授)

【基調講演 2】「ユーラシア的視点からみた平原王墓出土玉類の国際性」

田村朋美(奈良文化財研究所主任研究員)

【基調講演 3】「大型化する弥生墳墓と平原王墓」

南 健太郎(京都橘大学文学部歴史遺産学科准教授)

【シンポジウム】「伊都国最後の王墓、平原王墓に迫る」

コーディネーター:河合 修(糸島市文化課)

パネリスト:柳田康雄・田村朋美・南健太郎・平尾和久

定 員 600 人(申し込み不要)

参 加 費 無料

【問い合わせ先】

地域振興部文化課 担当:平尾

TEL:代表323-1111(内線1441)

文化課直通 332-2093

メール:bunka@city.itoshima.lg.jp

倭国形成と平原王墓

—平原遺跡発掘60周年記念—

第9回伊都国フォーラム

参加費
無料

定員
600人

申し込み不要
先着順

日時 令和7年10月26日(日)
10:00~16:00

会場 伊都文化会館大ホール

福岡県糸島市前原東2-2-7(筑前前原駅[北口]から徒歩約10分)

第1部 講演

調査報告「平原王墓の調査と伊都国の性格」

平尾 和久／糸島市地域振興部文化課

基調講演「平原巫女王墓とイト国が果たした役割」

柳田 康雄／國學院大學博物館客員教授

基調講演「ユーラシア的視点からみた平原王墓出土玉類の国際性」

田村 朋美／奈良文化財研究所主任研究員

基調講演「大型化する弥生墳墓と平原王墓」

南 健太郎／京都橘大学文学部歴史遺産学科准教授

第2部 シンポジウム

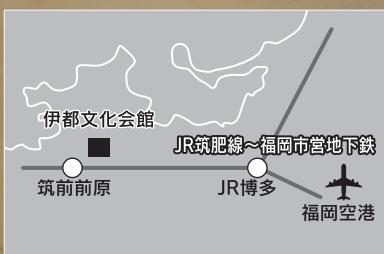
テーマ 「伊都国最後の王墓、平原王墓に迫る」

コーディネーター 河合 修／糸島市地域振興部文化課

パネリスト 柳田 康雄・田村 朋美・南 健太郎・平尾 和久



主催：糸島市



※伊都文化会館周辺は駐車場に限りがあります。
公共交通機関でのご来場にご協力をお願いいたします。

第9回伊都国フォーラム

倭国形成と平原王墓

－平原遺跡発掘60周年記念－

3世紀の日本列島の様子を記す『魏志倭人伝』。その中では伊都国に関する記述が、その存在、帶方郡からの使者の滞在など具体的な姿が描かれています。この伊都国を象徴する遺跡が、今から60年前に発掘調査され、40面もの銅鏡が発見された平原王墓です。

平原王墓が築かれた時代は弥生時代から古墳時代への転換期にあたり、西日本全体で墳墓の大型化など大きな変化がみられる時期として知られています。今回のシンポジウムでは、西日本各地からお招きした先生方とともに、平原王墓を取り巻く状況の検討をつうじて、伊都国の役割や歴史的重要性についてアプローチしていきます。

第1部 報告・講演 10:00～

10:10～調査報告

「平原王墓の調査と伊都国性格－平原王墓発見から今日までのあゆみ－」

平尾 和久(糸島市地域振興部文化課)



10:35～
基調講演1

「平原巫女王墓と イト国が果たした役割」

柳田 康雄(國學院大學博物館客員教授)

國學院大學在学中に平原王墓の調査に参加し、福岡県教育委員会に在職中は、県内的重要遺跡の調査を行う。伊都国王墓の三雲南小路王墓や平原王墓をはじめ、若八幡宮古墳や三雲・井原遺跡の調査・指導に携わる。現在も銅鏡・青銅器をはじめとする弥生文化研究の第一線で活躍する。

主な著作に『日本・朝鮮半島の青銅武器研究』『九州弥生文化の研究』『伊都国を掘る』など。



12:45～
基調講演2

「ユーラシア的視点からみた 平原王墓出土玉類の国際性」

田村 朋美(奈良文化財研究所主任研究員)

保存科学・文化財科学を専門とし、飛鳥・藤原地域から出土した金属製品や木製品の保存処理に携わる。研究活動としては蛍光X線分析を用いた化学組成分析から日本で出土するガラス玉生産地や交易ルートの解明に取り組む。

主な著作・論文に『古墳時代の考古学』8(分担執筆)「福岡県平原1号墓出土の紺色重層ガラス連珠の再検討」など。



13:40～
基調講演3

「大型化する 弥生墳墓と平原王墓」

南 健太郎(京都橘大学文学部歴史遺産学科准教授)

東アジア考古学を専門とし、銅鏡に関する論考も多い。また、弥生時代最大の規模を誇る樋築墳丘墓にも造詣が深い。近年は古代山城や水中考古学にも視野を及ぼし、大学で後進の育成にあたる。

主な著作に『吉備の弥生時代』(編著)『東アジアの銅鏡と弥生社会』など。

第2部 シンポジウム 14:30～16:00

テーマ

「伊都国最後の王墓、平原王墓に迫る」

コーディネーター

河合 修(糸島市地域振興部文化課)

パネリスト

柳田 康雄・田村 朋美・南 健太郎・平尾 和久

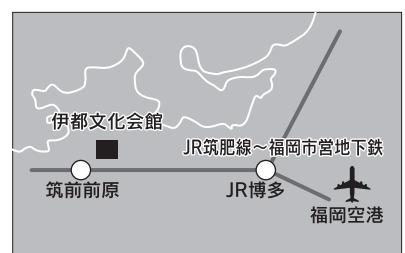
主催



お問い合わせ

糸島市地域振興部文化課

〒819-1192 福岡県糸島市前原西一丁目1番1号
TEL:092-332-2093 FAX:092-323-2344
E-mail : bunka@city.itoshima.lg.jp



からだで奏でる！みんなでつくるリズムの祭典
「糸島インクルーシブ＆ボディパーカッションフェスタ」開催
～誰もが輝く、心と体で表現する音楽体験～

1 事業概要

- 初の企画「糸島インクルーシブ＆ボディパーカッションフェスタ」を12月13日(土)に開催(主催:糸島ライオンズクラブ、共催:糸島市)。
- 本事業は、手や体を叩いて音を出し、リズムを奏でる「ボディパーカッション」を通して、糸島特別支援学校の児童・生徒と地域の子どもたちとの交流を深め、「ともに生きる」ことを実感できることを目的としている。
- ボディパーカッションの第一人者である山田俊之氏(九州栄養福祉大学教授・一般社団法人ボディパーカッション教育振興会代表)の指導・監修の下、産学官民が連携して取り組む。

【主催・共催・指導・監修・協力】

- 主催:糸島ライオンズクラブ
- 共催:一般社団法人ボディパーカッション教育振興会、糸島市(地域振興部 文化課)
- 協力:九州栄養福祉大学(指導・監修)、福岡県立糸島特別支援学校(児童・生徒、会場)
糸島フィルハーモニー管弦楽団(演奏)
九州大学人間環境学研究院 糸島インクルーシブ・アートヴィレッジ・プロジェクト(大学生)



2 事業のポイント(特長)

(1) 「ボディパーカッション」で一緒に音楽を奏でる

手や体を叩いてリズムを奏でるボディパーカッションを通じ、誰もが楽しめて、自己表現力や協調性を育むことができる。

(2) 第一人者である山田俊之氏が指導・監修

専門家による指導で、子どもたちの才能を最大限に引き出す。

(3) 地域一体となったインクルーシブな文化活動を推進

糸島特別支援学校児童・生徒と泊地域の子どもたちが交流し、「ダイバーシティ&インクルージョン(多様性と包摂性)」をたいせつにしたまちづくりにつなげる。



【参考】

山田俊之先生
紹介 Web

【期待される事業効果】

- 資質や技能を問わず楽しめる芸術であり、多様な児童生徒に音楽体験を提供できる。
- 体を使って音楽を表現することにより、教育的・情操的效果が期待される。
- 市民に文化芸術活動へ触れる機会を提供できる。

3 今年度の実施状況

- 初年度は、会場を糸島特別支援学校体育館とし、関係者に限定する「スマールスタート」。
- すでに、7月16日と9月10日に糸島特別支援学校において練習を実施。

【今後の練習予定】

- 日程:①10月9日(木)、②11月12日(水)、③12月10日(水)
- 時間:13時25分~14時30分 ※①~③いずれも
- 場所:糸島特別支援学校 体育館(糸島市泊965番地) ※①~③いずれも
- 対象:①は、特別支援学校と地元の児童・生徒(合同練習)
②、③は、特別支援学校児童・生徒のみ

4 発表会概要

- 「糸島インクルーシブ&ボディパーカッションフェスタ」の発表会を、下記の通り開催。
- 日程: 2025年12月13日(土)
- 時間: リハーサル 10:00~ / 開演 11:00~(約1時間)
- 会場:糸島特別支援学校 体育館(糸島市泊965番地)
- 出演: 糸島特別支援学校 小学5年生~中学2年生、泊一・泊二行政区の児童・生徒
- 演奏: 糸島フィルハーモニー管弦楽団
- プログラム(案):
 - ①「リズム遊び」発表(授業成果・観客参加型)
 - ②ボディパーカッション演奏「アイネクライネナハトムジーク」「くるみ割り人形トレパーク」など 2曲程度
 - ③ボディパーカッションアンサンブル「手拍子の花束」
 - ④音楽鑑賞(クリスマス曲等を含む2曲程度/糸島フィルハーモニー管弦楽団演奏)

5 今後の展開

本事業は、初年度はスマールスタートとし、今後5~10年単位で継続的に実施していく予定。より多くの児童・生徒や地域住民が参加できる公開事業へと発展できるよう、運営方法やスケジュール等を関係機関と協議していく。

6 その他

(1) 記録映像

本事業の記録を映像・写真等により制作し、周知や次年度以降の事業検証(今後の改善)等に活用する予定。

(2) 注意事項

児童生徒の安全・安心を最優先とし、写真・動画の撮影・掲載は学校側の許可範囲内でお願いしたい。

●問い合わせ先・取材申込先

糸島市地域振興部 文化課 文化振興係 担当:松藤・大園

電話:092-332-2093(課直通)

E-mail:bunka@city.itoshima.lg.jp

ボディイパーカッション教育活動のご紹介

【活用ポイント】

- ・様々な障害（知的障害、聴覚障害ほか）があっても音楽を楽しめる
- ・言葉が通じなくても、世界中の子ども達（アジア、ヨーロッパ、アメリカ）の人と一緒に楽しめた実績がある。
- ・年齢に関係なく、全ての子どもから大人まで楽しめる
- ・高齢者ボランティアに活躍できる。



カンボジア教育支援活動（2015年～2020年）



2019年 ニューヨーク・カーネギーホールで演奏



NHK交響楽団との共演（2001,2004,2006年）



2023年 英国オックスフォード大学で研究作品発表

1

ボディイパーカッション教育の始まり

「A男が暴れています！ 先生早くきて下さい。」←

クラスの女の子が金切り声を上げ、「A男が暴れています！ 先生早くきて下さい！」叫んで職員室に入ってきた。小学校4年生の担任になって朝の職員朝礼の時、毎日のようにクラスの子ども達が呼びにきていた。慌てて階段を駆け上がって2階の教室まで全速力でいく。誰か怪我をしていないだろうか、教室の扉を開けるまでは不安で一杯になる。ドアを開けて教室を見渡すと、A男が教室のほぼ中央に立っており、その回りは誰もいない、A男を中心に同心円を描くように遠巻きにみんなが見ている。一人の女の子が教室の隅で泣いており、A男は肩で息をしてまだ興奮状態が続いている。←



2

勉強も運動も苦手な子どもはどこで自分の存在価値を見つけるのだろう？←

1986年（昭和61年）当時は勉強が苦手で運動も苦手な子どもはどこで自分の存在価値を見つけるのだろうと教師として悩んでおり、A男がまさにこれに当てはまる生徒だった。給食準備中の放送で音楽「アイネクライネナハトムジーク」が聞こえてきた。音楽の時間に興味を示さなかったA男が曲に合わせて、手で楽しそうにリズムを取っている。その時、手拍子などを使ってA男も参加できる授業が出来ないかと考えた。←

【右記のQRコードの映像説明】（今回のプロジェクトイメージ映像）

NHK交響楽団「アイネクライネナハトムジーク」（モーツアルト）の演奏に合わせて久留米市立久留米特別支援学校高等部の生徒が音楽に合わせて、ボディパーカッション共演の映像です。（2006年）

◆ ボディパーカッション指導・指揮：山田俊之



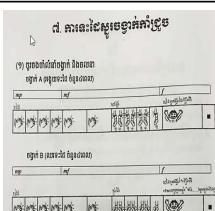
3



実施時期：2015年～2019年
カンボジア教育省カリキュラム編成局主催、JHP「学校を作る会」
JICA（独立行政法人国際協力機構）・文部科学省（教育課程調査官）
教育支援プロジェクト



～「図形楽譜教材でカンボジア教育支援～ボディパーカッション教育活動」
を通して考察するカンボジア教育事情～



コンポントラバエク郡の
公立小学校の子ども達と校長先生 児童養護施設における訪問授業

図形楽譜



4

2023年3月 英国・オックスフォード大学でインクルーシブ教育教材として
「ボディパーカッション教育研究作品発表」を実施し高い評価が得られた



5

2024年の活動紹介

2024九州社会教育主事講習「身体による共鳴と創造」
のタイトルでボディパーカッション教育を伝える。
(文部科学省のホームページより)



<https://mext-shakaikyoiku-gov.note.jp/n/n04377073c9bb>

NHKエデュケーションと多摩美術大学との「インクルーシブ教育产学連携」で
国内外のボディパーカッション教育活動を伝えるワークショップ
(多摩美術大学のホームページより)



<https://www.tamabi.ac.jp/news/76903/>
[\(https://www.tamabi.ac.jp/news/76903/\)](https://www.tamabi.ac.jp/news/76903/)

6

- ・東京サントリーホールミュージックマルシェ
イベント(主催、森ビル株式会社、サントリーホール)
(アーチヒルズ・ホームページより)

<https://www.arkhills.com/events/2024/09/0121.html>



2019年フーリン 楽団「パプリカ」で、様々な障害がある
子ども達も一緒にボディパーカッション指導（山田俊之）

NHKみんなの歌で大ヒットした「パプリカ」でフーリンの子ども達
5名と、発達障害、聴覚障害、視覚障害ダウン症、脳性麻痺、
小児がん、肢体不自由の子ども達10名 合計15名の子ども達が参加

https://www.nhk.or.jp/minna/songs/MIN201912_05/
(https://www.nhk.or.jp/minna/songs/MIN201912_05/)



7



山田俊之



2024NHKみんなの歌「ボディパ」で聴覚障害の子ども達とNHK教育テレビに
出演（子役）しているの子ども達へボディパ監修の指導（山田俊之）

https://www.nhk.or.jp/minna/songs/MIN202412_05/

8